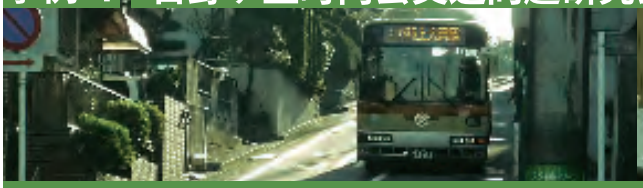
事例４　日野ヶ丘（ひのがおか）町内会交通問題研究会



まちづくりはサポーターづくりから

地域交通 Category

エリア	港南区日野4丁目
面積	約18ha
世帯数	約1,100世帯
用途地域	第1種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、準住居地域

安全指導ボランティア

実証運行時のバス車内から

まちづくり Q&A

「バスが走って、まちの人の反応は？」

ある若い夫婦は、アンケートにこう回答しています。
「良いところだけれど不便だったので引越そう。」と考えていました。でも、バスが走るようになって便利になったので、引越しの話はなくなりました。

「サポーターを増やすコツはありますか？」

広報誌などでこちらの考えや悩みを率直に伝え、共感を生み出すことでしょうか。地域の皆様とのコミュニケーションを活発にし、住民の気持ちを吸収する地道な努力が、サポーター獲得に繋がったのではないかと思います。

駅が遠いまち

日野ヶ丘はバスも電車も近くになく、住民にとって交通の便が悪いことが悩みの種でした。地区には急な坂道が多く、高齢者は長い上り坂を苦労して休み休み歩いて、ようやく家に帰り着くありさまでした。バス路線が欲しいというのは、住民共通の永年の願いだったのです。

うちでもやれるかも？

バスを通す話が多少なりとも現実味を帯びてきた背景には、桜道で運行された江ノ電の小型循環バス『こまわりくん』の成功がありました。桜道でやれるなら…。町内の老人会からの要望を機に、平成19年8月正式に活動がスタートしました。

慎重なスタート

ここでは、以前もバス誘致の活動をしたことがあり、そのときの経験を基に、慎重に行動を開始しました。

道路局に相談して、紹介された地域交通サポート事業を利用し検討を始めました。バス会社にも協力をもとめ、町内へ活動の輪を広げていったのです。

町内みんながサポーター

「署名を集めて陳情して、あとは市に任せてしまうやり方では上手くいかない。住民一人ひとりがこの活動を本気で取り組んでいく形でやらなくてはいけない。」その信念の下に、『まちづくりのサポーター』として、みんなが活動に参加することから始めていきました。

広報誌を作成して配布し、町内会の役職を経験した人たちに頼んで口コミで話を広め、隣の自治会・町内会にも応えていただき、バスを通す活動は本格的に動き始めました。

実現に向けての苦労

一番の苦労はバスが通るルートの選定と、バス停留所の位置並びにポールの設置でした。色々な要望や不満を、戸別に訪問して粘り強く解決していきました。

また営業運転のためには実証運行が必要です。そのためには、安全の確保が絶対の条件でした。警察・土木事務所や小学校の協力を得て、町内を走る業務用車両にも安全走行を呼びかけ、ボランティアによる子どもの安全指導も行ないました。

バスが走った朝

平成23年10月実証運行初日の朝、第一便の運行が始まったときのこと。動員をかけたわけでもないのに、町内総出で沿道に人が並んで、拍手でバスを迎えたのです。『町内みんながサポーター』を象徴する光景でした。

乗降客数も順調で、採算面も十分に見合うことがわかりました。神奈川中央交通株式会社の努力もあって、実証運行は成功のうちに終了し、現在は本格運行に向けて準備が進められています。（平成24年4月から本格運行が予定されています。）

実証運行時のバスルート

用語解説

地域交通サポート事業

横浜市地域交通サポート事業は、地域特有の交通に関する諸問題に取り組む住民グループに対して、市職員や専門家を派遣し、地域の実情に合わせた運行手段を策定し、アンケートの集計・分析を行い、事業の採算性を確認し、運行事業者による実証運行により検証する等、計画から運行までを支援する事業です。